



公益社団法人日本山岳会  
石川支部報



2014年度(平成26年度) 3号

平成 26 年 12 月 26 日発行

I.計画山行、行事報告……………1-5

II.その他行事等報告……………6-10

III.今後の行事予定……………10-11

IV.その他お知らせ……………11-12

## I. 計画山行・行事報告

1. 紅葉山行 涸沢幕営～ザイテングラート～奥穂 (3,190m) ～前穂 (3,090m) ～岳沢

■ 10月3日(金)～4日(土)

・参加者 CL 関本邦晴 織田伸治 安田二三男 池本順平 (4名)

1日目(10/3) 昨年同時期に涸沢～パノラマ新道(屏風岩)を歩いた。同じ道筋で、目にする色も風も、同じものは一つとしてない。全て新たな感動だ! 7:53 上高地バスターミナルを出発、空は雨含みの曇り空。8:38 明神～9:34 徳沢～10:36 横尾へと進む。空模様を気にしながら歩く間もなくポツリポツリと泣き出してきた。12:00 本谷橋で軽い昼食。今年の紅葉は、時季少雨のせいでナナカマドやカエデの、色づく葉が枯れて巻き、鮮やかな色が出ていない。涸沢ヒュッテ下の分岐まで来ると、“先にテン場に入るゾ”との声が掛かる。14:02 テント場着。適地設営の場所をOさん探し当て2張に分宿、なかなか聞けぬ話に酒も進む。夜半、満天の星空に晴天を確信したのだが・・・。

2日目 眺望は利くのだが天気は薄曇り。7:10 テント場を後にし、涸沢小屋脇を抜けるコースを取る。広大な斜面を進む、立ち止まるたび左手には前穂北尾根の岩稜が立ちはだかっている。ザイテングラート取付に出た、団体さんの列が続きここはゆっくりと足を進める。やがて 9:50 穂高岳山荘に着く。石畳のテラスに腰を下ろし軽く腹にと思い

きや S・A さんは900円のラーメンを。10:10 鉄バシゴの岩稜登りから上部稜線に出る。寒い! 肌に刺さる寒風にウェアを重ね着する。11:00 山頂(3190m)着、ケルンの上に穂高神社の祠が。何度か通過したところだが S・I ケルンの上に立った事が無い。罰あたりを詫びて4名登頂 3193m。眼前に迫るジャンダルムの岩峰、笠・涸沢・北穂・槍が、遠望に南アルプス。乗鞍の横に御嶽山の噴煙が真っすぐに昇る(9/27 水蒸気噴火で死者56名を出す)。吊尾根に向かう、足下には岳沢から上高地の広大な谷筋が。11:28 南稜の頭に出る、最低コルから涸沢を見下ろし前穂高岳の岩峰を見据える。13:56 紀美子平には大勢の登山者が、岳沢前泊のツアー登山だと言う。当節の女性の逞しさ、吊尾根で行き交う単独行は皆若き女性で男子の姿は無い、団体も中高年の女性ばかり。明日は雨との予報に岳沢幕営は取り止め一気に上高地へと話がつく。O・Aは前穂へ、団体さんより先にと2人は一足先に下る。急峻な岩場が続く、クサリとハシゴの助けを借り重太郎新道を下る。カモシカの立場で一息入れ岳沢小屋に着く。二人には悪いがジョッキーで喉を潤し、

山研に亙 “泊まれないか” 団体予約で無理。バスは 17:00 最終、タクシーに連絡 18:30 までに B.T に着ければ。“何時頃下りてくるかな？”さすが健脚だ 16:02 岳沢着。事情を話、一息入れて 16:30 走る～！



17:58 登山口に出る。タクシーに予約を入れ 18:20 B.T 着、平湯に。風呂は帰ってからと帰路に着く。往復、車と運転委ねっぱなしの A さんには唯感謝の思い。

(文・写真 池本順平)



## 2. 自然観察会 石動山 (公益事業)

■ 11月8日 (土)

参加者 ・会員 埴崎滋、安田二三男、谷路一昭、樽矢導章、大幡 裕

・一般 樽矢 (母)、北出貴美子、谷内正子、徳田一枝、佐藤陽子、高山千鶴 (11名)

9時過ぎから三々五々集まり始め、9時30分には全員石動山資料館の前に集合。自己紹介と、今日のガイド中能登町の竹口典子さん (いするぎ夢案内) のコース概要説明の後出発する。

まず、動字石を手はじめに伊須流岐比古神社、五重塔跡などの史跡を巡りながら石動山の頂上大御前 (564m) を目指した。仏像や史跡の説明はガイドの竹口さんが詳しく話をされた。

秋のこの時期だけ芳香を発する大カツラや巨大なモミジの木のある林を過ぎ、紅葉の始まったブナの林の中へ。一般的には1000m以上に生えているブナがここでは500m足らずの標高に生えていることや、石川県ではここでしか見られないと言う姫軒忍の話など植物の解説を会員の安田さんから

聞きながら歩いた。

途中からは七尾湾なども見え、頂上からは、薄曇りの中かすかに立山が眺められた。記念撮影の後下山を開始。下山は別のルートで仁王門跡などを通り出発した神社前に戻った。その後、復元された大宮坊へと向かい、大宮坊の内部の見学と解説、またその裏手一带にある「石動山ゆり」(昔各寺坊で食料として栽培されていた) の紹介があった。

ここで自由解散となり、ちょうど12時ごろであった。大宮坊周辺で昼食をとる人、すぐに下山する人、資料館を見学する人と思いに別れた。

歴史的遺構などもあり、手付かずの自然もあり、子供連れなど散策するのにもほど良いコースのように思われた。

(文・写真 大幡 裕)



### 3. 全国自然保護集会

■ 11月22日（土）～24日（月）

- ・ 場所 広島工業大学広島校舎
- ・ 参加者 安田二三男（発表者） 埴崎滋

今年広島市で11月22日から24日まで開催され、石川支部からは安田、埴崎が参加した。当初は、同地で開催の「アジア山岳連盟（UAAA）総会/創立20周年記念式典」（11/22～26 主催：日山協・広島山岳連盟）との併催予定だったが、23日以降の行事との整合にJAC理事会で異論が出され、結局JACは独自に22日のみ開催した。

JACの31支部が夫々抱える自然環境の現状と課題等について一堂に会して共有し、将来への方向性を確認した。

原爆被災後、来年で70年を迎える広島の町並みは、訪れる度に近代都市化し目を見張るものがある。只、原爆ドームを中心とする平和公園の一角は資料館の強烈なインパク

23日は平和記念公園で、10か国からの代表を含めた300人規模の「広島山岳平和祭」に臨み、各国代表の追悼の辞のあと、全員が「ミス観光広島」手渡しによる白菊で献花を行い、慰霊と平和を念じた。

午後からは、UAAA国際シンポジウム「登山と山岳自然保護」に出席し、ネパールヒマラヤの=氷河湖崩壊、芳山からの=富士山の環境保全、HAT-Jからの=山岳環境保安活動、都岳連からの=オーバーユースからのし尿処

トから地獄絵を彷彿させるものがあり、時間がこの場所だけ止まっている様だ。

訪れた22日は好天でタクシーの運転手さんから、今日から幹線道路の夜間イルミネーションが点灯されるが、年々その規模が拡大して楽しみだと聞かされる。

理の問題提起、山のエコ上代表からの=富士山トイレの改善経緯、台湾登山会からの=自然保護活動、韓国山岳連盟からの=国内山岳の実情、日山協からの自然保護指導員制度、JAC下野綾子会員からの=山岳環境変化のデータ化の取り組み、その他の参加国からの報告があった。但し、これら資料、発表はすべて英語で、最初はチンプンカンプンだったが、山の内容故、次第に単語や映像で概要が把握できるようになり、貴重な体験であった。

24日はUAAA/UAAA(国際山岳連盟)と希望参加者による宮島・弥山ハイクがエキスカージョンで実施され安田会員と日山協集会参加

の前川会員が参加した。(注、今回高田会員と、前川会員の2名は石川山協として日山協主催「広島山岳平和際」へ参加)

JACの今年の集会テーマ名は(人と山との関わり)として、衆目を集めている「里山」にスポットを当て、基調講演に、里山資本主義一里山が宝の山に変わる瞬間—としてNHK報道局の井上恭介チーフプロデューサーの講話が有り、当支部安田二三男会員からも「里山へのアクション/スタディから展開する究極の可能性」の報告が出され、=11月8日の

石動山観察会、(能美の里山ファン倶楽部)が年間を通じた活動「キノコの森づくり・森の保育園・ガイドハイク」がスライドで紹介され、特に「人と山との関わり」としての幼少期からの里山ロケーションでの自然との対話の様子が映し出されると、会場の多くの会員からも等しく頷く様子が見られて、好評を博した。

以下、各支部の報告と協議内容を列記する。

●埼玉支部=シカの実態調査と奥秩父の森づくり。●千葉支部=観察会は山行委員会で併行実施、県の里山シンポに参加連携。●多摩支部=水源地里山ハイク、都のサポートレンジャー(石積み・ゴミ拾い)。●越後支部=清掃定期登山、高頭祭、弥彦山ユキワリソウパトロール。●石川支部=前段に記載。●東海支部=森の勉強会(地元を離れて上高地山研で)、猿投の森の継続定点観察(イノシシ・シカの増加に因る実情)。●信濃支部=シカの西穂・爺ガ岳での目撃から実態調査、登山道の行政補助による補修推進、登山カードの提出方策、対象山岳のグレーディング付け(現地/身体)作業着手。●京都滋賀支部=比良スキー場跡地整備観察、ダンダ坊遊歩道整備、ヤマシャクヤクの保護を焦点にする自然観察会。●関西支部=本山寺山(大阪府より受託)森林整備・クマ/シカわなの見廻り、六甲東お多福山の草原整備シカの入込阻止、大台ヶ原利用促進協議会での周回線歩道協働。●四国支部=剣山山系のオオヤマレンゲ保護活動、シカの防護ネット整備の協働。●北九州支部=英彦山のトイレ設置実現に尽力、森林監視保全状況活動(森林管理署より受託)。●福岡支部=平均72歳の構成で現場作業の縮減、森林観察会の遠征実施(上高地/出雲大社近隣)。●宮崎支部=田野の森の修復(カヤからヤマザクラ)、水源の森保全活動、清掃登山の継続。

★森武昭JAC会長挨拶=委員会各支部の日常活動の継続に深い感謝と敬意を表します。「山の日」の啓蒙の推進に引続きのご協力と、幼少年齢からの山への親しみを増幅させる「親子登山」への取り組みをお願いしたい。

★特別支部報告 ●宮城支部=2011東北大地震後の宮城県での放射線量測定報告、180地点・400箇所での経年数値では原発北西部での帯状の放射の汚染は、いわゆる「30Km」を遥かに超えている現実が有る。 ●静岡支部=リニア中央新幹線についてJR東海から11月18日に地元で説明会があった。事前のアセスメントで大井川流域(南ア二軒小屋周辺)での非常口からトンネル掘削土が360万m立法と予測されその残土の置き場と、トンネル工事による地下水漏洩から推定される河川水の毎秒2トンに及ぶとされる減水が流域の自然環境への影響を危惧し、川勝平太県知事に山岳四団体名で申し入れ書を提出した。今後の動向での報告を続けます。

広島支部＝以前から独自に「山の日県民の集い」を展開しており（山の日）と有機的に活用を図る、広島土砂災害地への復旧ボランティアの継続、本会の（お昼）に提供されている「山のお弁当」は容器・食材・包装に環境にやさしい工夫が凝らされ、環境基金にも拠金される優れたものと自負しており、広がればと期待大です。

★成川隆顕「山の日」事業委員長＝仕掛け人としてく山に親しむ機会を得て、山の恵みに感謝するの意義を踏まえて、夏山シーズンの最盛期で、お盆休みに直結する日取りでもあり「家族登山」を機軸に山岳四団体と連携して企画、運営に当たる。各支部での広範な活動展開の取り組みと進展を是非ともお願いをいたしたい。

\*参考＝「里山資本主義－日本経済は安心の原理で動く」は版を重ねて、35万部売れており、石破大臣も最近になって読まれたそうです。

（文 埴崎滋 写真 前川陽）



広島山岳平和祭

#### 4. 山祭り

■ 11月29日（土）～30日（日）

・場所 小松市大杉町「生活改善センター」

・参加者 中川 関本 岡本 津田 樽矢 北 大庭 大庭（太） 織田 池本  
尾山 内藤 小幡 木村 山本 藤江 （16名）

小松市大杉の「生活改善センター」をお借りして、今年度の山祭りが開催されました。

広辞苑によると、山祭りとは、山を祭ること、山の神をまつること。山を愛する私たちにとっては、安全に今日を迎えられたことを山の神様に感謝する日です。

29日午後から、この春、退会されましたが、西出さんの協力をいただき、食材の下準備をしたり、建物の清掃などをして、18:00 乾杯と共に開始。ブリやサワラの刺身、ブリしゃぶ、天ぷら、獅子鍋など盛り沢山のご馳走と共に、夜が更けるまで皆で大いに盛り上がりました。

日頃は、それぞれ忙しかったりと会う機会が多いわけではありませんが、同じ山岳会のメンバーとしての意思の疎通は大切だと思いました。

建物は、調理用ガスは持ち込み、寝袋持参ですが、大広間や小部屋、調理室など十分な条件が備わっています。ブリを始めとする食材の調達から調理まで大活躍をされた池本さん・関本さんをはじめ、皆さん、ありがとうございました。新しい年も山岳会の名に恥じない、そして、事故のない楽しい登山が続けられますように。（文 藤江以住）

## II.その他行事報告

### 1.H26年支部長会議、年次晩餐会報告

■12月6日(土)

・会場 京王プラザホテル 47階会議室「あけぼの」

当日、年次晩餐会が行われる午前中に、全国32支部の支部長と本部役員16名が出席して支部長会議が開催された。北陸は寒波襲来だが東京は雲一つない快晴で遠く霊峰富士が見えた。

10時30分より会議が始まり、概要は以下のとおりである。

#### 1.) 110周年記念事業について (第16回実行委員会の現状報告)

##### 1 企画審査特別委員会の報告

- ①支部海外登山隊部門(宮崎委員) 東海支部で検討中。
- ②学術調査登山隊部門(神長委員) 2件検討中(ゴジュンバ氷河・カムチャッカ半島)
- ③極限探究登山隊部門(萩原委員) 3件中1件検討中。他2件は具体案未定。
- ④旅行者募集企画部門(節田委員)・本部が企画し、支部・会員に参加呼びかけ。300名山は集会委員会と旅行者で調整中。基本計画は来年5月より開始。グレートヒマラヤトレッキングを検討中で支援必要

##### 2 記念事業各プロジェクトの進捗状況報告(野口委員)

- ①記念シンポジウム・国際交流プログラム  
医療委員会と科学委員会の共催で2015名古屋夏山フェスタ、松本山岳フォーラムにおいて「御嶽山噴火と登山(仮称)」のシンポジウム提案。
- ②国際交流アジア学生登山 日中韓三国学生交流登山継続実施。2016日本で開催。

##### 3 出版事業(節田委員)

- ①日本三百名山 発行済
- ②新日本山岳誌 企画進行中
- ③ヒマラヤの東-登山地図帳 企画進行中
- ④辺境からの発信 企画進行中
- ⑤インドヒマラヤ 企画進行中

##### 4 記念式典(高原委員) 実施計画案、基本方針検討中

##### 5 寄付金募集

学生部ムスタン女子隊 現在475万円。男子隊はカンチェジュンガ山群を計画中

#### 2.) 安全登山について (遭難対策担当理事 川瀬恵一)

「遭難対策規程」及び「要領」が公布された。支部活動の次年度事業計画(公益・共益)に伴う山行は実施前に本部へ計画書の提出が必要です。山行担当者は、参加者確定次第事務局へ提出してください。尚、同好会や個人山行は含まれません。

\*参照 石川支部報第2号(H26.10.7発行)P8~9

#### 3.) 「日本山岳会の説明会」開設について (高原常務理事)

従来新入会員にはオリエンテーションを開催していたが、参加機会が少ないのと、日本山岳会

への入会を検討している方に JAC を理解してもらい入会ハードルを下げる目的で、年 5 回隔月で定期的な「説明会」を開催する。内容はパワーポイントなどを使い総務委員会と YOUTH CLUB が説明する。現在説明用パワーポイントを作成中で 2015 年 2 月完成予定。支部への配布も検討している。

#### 4.) 日本山岳会の財政問題 (財務担当理事 吉川正幸)

●会費収入の減少・・・2001 年には会員数は 6000 人、会費収入は 6800 万円を超えた。しかし 2014 年 3 月期決算の会員数は 5000 人強、会費収入は 5200 万円強である。会員の減少とともに会費収入も急速に減少している。

●その理由は 2 つ・・・第 1 は会費滞納者の増加である。毎年きちんと納入されない会員がいる。高齢の会員は会費の納入手続きが困難になっている会員も多いのではと推測される。その対策として今年度より会費の口座振替制度を導入したが、高齢会員ほど口座振替制度に変えていただける方が少ないのが現状である。

第 2 は会費免除会員 (名誉会員・永年会員) の増加である。永年会員は長年 (50 年以上) にわたり会の発展に貢献した方で、2014 年 3 月末で 326 人、全会員の 6.5% を占めるまでに増加している。会費免除会員の増加は会費収入の減少につながっていることも苦い事実である。現在お元気で余裕のある会費免除会員の方には会費に代わって任意で寄付をお願いすることを検討している。

●寄付金と助成金・・・平成 23 年に公益法人化する直前から、寄付金と助成金が会費以外の収入として大幅に増加した。会費収入とともに日本山岳会の活動を支える源泉となっている。しかし寄付金・助成金は通例は特定の用途が決められているので同額のひも付き費用が発生し、会の経常的費用となってしまう。従って事業費は確実に増加してきている。

●財政の現状・・・会費収入は 12 年前に比べ 1500 万円も減少しているため公益会計基準を採用したこの 5 年間は実質毎年 500 万円を超える赤字を計上している。何とか資金難にならないでいられるのは、経費節減と過去の蓄積を取り崩している状況である。経費節減に関しては、事務局長もおかず、役員報酬はおろか理事の交通費の補給も行われていない。経費節減は限界にきている。つまり日本山岳会は最盛期の組織・設備体制のままなのに、会員の高齢化と減少が進み収入も減少して、赤字に陥っているのである。

#### ●財政再建と復活への方策

私見であるが、事業縮小による経費節減によっては財政再建と日本山岳会の再生はできないと考える。会費の値上げによる財政再建の方策は、会員の減少を招く結果となろう。会が公益法人化し、山岳団体では唯一「寄付金の税額控除認可法人」に指定されたことは将来の事業の活性化につながる明るい兆しとなっている。寄付金や助成金を活用して事業活動を活発化して会員の増強に努める事しか生き延びる道はないのではなからうか。又会員制度も現状、夫婦会員青年会員の会費減額制度があるが、入会には単一の入会制度しかない。他の公益団体や内外の山岳団体を見ると正会員、準会員、賛助会員等複数の会員制度を導入している団体が多い。各会員制度に応じた会員サービスを設けている。会員増強のための方策としては、まだまだ工夫の余地があると思える。会員には各分野で豊富な経験と司式を持つものも多く、知恵を絞り方策を考え、実行に移すことしか日本山岳会が 120 周年を迎えることは難しく、伝統を守りながら生き延びる方法はないものと信じる。

●東海支部・・・登山教室等で若年層の増強に力を入れている。意欲のある人には入会金を補助して

いる。

● 関西支部・賛助会員を増加すべき。登山は年間 5000 億円のマーケット。

以上、前記のような内容で会議は終了したが、中でも財務担当吉川正幸理事による「日本山岳会の財政問題」については切迫した問題であり、支部においても早急な対策の必要性を痛感した。

午後 1 時 30 分には年次晚餐会の受付が開始され、全国津々浦々から会員が集まってくる。石川支部からは、津田文夫顧問、前川事務局長、太田会員、樽矢インターネット委員が参加した。午後 2 時から図書交換会、アルパインスケッチクラブのスケッチ展、講演会が行われ学生部女子ムスタン登山隊の報告や、今年 JAC に入会しアジアピオレドール賞を受賞した谷口けい氏の講演会があった。午後 6 時から恒例の年次晚餐会。今年も皇太子殿下が列席され 8 時 45 分の閉会まで和やかな時が流れた。

宿泊先のホテルへの移動中空を見上げると、大きな満月が高層ビルを明るく照らし、澄んだ大気の中白く流れる雲との対比が綺麗だった。

(文 中川博人 写真 前川陽)



年次晚餐会にて 宮本元福井支部長と

## 2. H 2 6 年度第 2 回支部役員会議報告

■ 1 2 月 1 6 日 (火) 1 9 時～2 2 時

・場所 金沢市総合体育館第二会議室

・参加者 中川 関本 岡本 大幡 埴崎 村上 前田 織田 樽矢 前川 (10名)

本部から来年度事業計画の提出依頼が 1/15 締切で要請があったため急きょ開催する。

議題を事前に周知し事前の検討を依頼した結果、5 議題すべて審議可決した。

内容は以下のとおり。

### 1. 平成 2 7 年度支部事業計画 (案)

\* 基本方針として、

「支部活性化(魅力ある企画)、次期リーダー育成、会員増強とHPの更なる有効活用を図る」ことを軸に、特に会員増強については、これまでリスク管理の観点から、会員(含む会友以下同じ)以外の山行同行を自粛してきたがこれらを改め、同行会員の責任(同行者の力量判定及び指導等)に基づき、積極的に会員の友人・知人等の山行同行を推奨していく。

\* 公益事業を以下のとおり企画する。

・登山道整備(杉峠1回/年、みくまり道2回/年、火燈・不惑道2回/年)

・自然観察会(HP等による公募)6月蟹淵(能美市鍋谷地区)

・登山教室+親子登山(合同で、2回/年⇒最初に登山教室で知識を高め、親子登山で実地指導。これらの実行委員会を立ち上げる⇒委員長は岡本さんで決定)

・当初案⇒登山教室(白山ろく少年自然の家0r 医王山スポーツセンター)

親子登山(白山0r 医王山)

- ・清掃登山（1回/年 9月白山 大汝避難小屋清掃登山）
- ・石川山協県民安全登山協賛 1回/年 ⇒ 別途石川山協から要請有り
- ・その他「山の日」制定を記念した、「深田久弥山の文化館」等との共催事業等を模索中

\* 共益事業を以下のとおり企画する。

定例山行を年間10山ほど企画する。なお、基本方針でも触れたが山行レベルに応じて会員の友人、知人等を積極的に勧誘し、会員の増強を図る。

⇒提案があった山

4月（細蔵山） 5月（大長山） 6月〔武奈ヶ岳（比良山系） 一泊二日〕 7月（槍～穂高 二泊三日） 8月（乗鞍岳 千町尾根 一泊二日） 9月（公益清掃登山で充当） 10月（涸沢 一泊二日） 11月（火燈山 5支部合同懇親登山 一泊二日） 2月（南八ヶ岳 一泊二日） 3月（兜山 小松市大杉町）

・懇親活動 ⇒ 暑気払い（7月）及び山祭り（11月）いずれも場所は、小松市大杉町「生活改善センター」担当、関本さんで実施。

## 2. JAC創立110周年記念企画「改訂 新日本山岳誌」刊行

「新日本山岳誌」は発刊より10年が経過したため、この度「改訂 日本山岳誌」として内容を現状に校正とのこと。創立110周年記念事業の一環。

作業は、本部から送付された原稿を校正要領に従って校正するもので、例えば市町村合併に伴う現状名への変更や誤字、脱字、経年変化に伴う訂正等多岐に亘っている。

来年の年次晩餐会兼創立110周年記念祝賀会に間に合わせたいとのことで、校正は平成15年2月末までに事務局（前川）提出でお願いします。

なお、白山は力丸先生が執筆されましたが、既にお亡くなりになられていますので、300名山で白山を担当された西嶋さんをお願いしました。同様に岩谷さんの大倉岳やご高齢で退会された佐伯さんが執筆された笠山は事務局（前川）で校正する。

## 3. 「浅犀みくまりの道」周回道開設関連

周回道は本年8月末に完成し、運用については第一回役員会議に諮りその内容は支部報第2号（H26.10.7）にて報告済みですが、その後、現場を見ていない役員等を含め視察を行い、この度、以下のとおり決定した。

・「浅犀みくまりの道」は「周回道」含めて今後、管理、運用していく。

- ・いわゆるマイナーなルートで危険箇所もあるため、アウトバウンド（広報）は行わずインバウンド（返答）に徹する。
- ・登山は、自己責任が原則であるが、それを含めて初心者向けの注意喚起用看板を設置する。
- ・前項に関し、奥高尾山からの下山コースについては更なる整備（刈込、足場ステップ、ロープ 渡渉地明示等）を行う。特に看板については、奥高尾山からの下山コースの難易度及び増水時渡渉の危険性について、簡潔、明快な看板を設置する。
- ・大倉山周回道を含め今後支部として、有効活用を図っていく。

#### 4. 5支部合同懇親山行について

来年（H27）石川支部が担当であり、これまで医王山、奥獅子吼山や、火燈山等が候補に挙げられたが、総合的なメリットを勘案して以下のとおり決定。なお、実施に際しては、全会員に協力を乞うこととする。

- ・月日 平成26年11月7日（土）～8日（日）
- ・場所 火燈山（803m）
- ・宿泊地 現在、関本さんにご斡旋いただいています。
- ・その他 会費等詳細については今後決定しますが、各位には役割分担しますのでご協力願います。

#### 5. その他

第31回全国支部懇談会（第3回小島烏水祭併催）

- ・主催 四国支部
- ・月日 平成27年4月11日（土）～12日（日）
- ・宿泊 喜代美山荘「花樹海」
- ・会費 19,000円
- ・参加資格 JAC会員（会友）及び関係者

小島烏水はJAC初代会長でもあり、初回に参加した印象が良かったので元気な間の参加を推薦する

### Ⅲ. 今後の行事予定

#### 1. 雪山山行

■平成27年2月13日（金）～15日（日）

- ・場所 北八ヶ岳「天狗岳」
- ・担当者 関本邦晴
- ・申込 2/8（日）までに担当者もしくは事務局まで

\*詳細は別途参加者へ通知します。

#### 2. カンジキ山行

■平成27年3月14日（土）

- ・場所 奥医王山
- ・担当者 岡本明男
- ・申込 3/8（日）までに担当者もしくは事務局まで。

\*詳細は別途参加者へ通知します。

#### 3. 福寿草の山

■平成27年3月22日（日）

- ・場所 藤原岳（三重県鈴鹿 1,140m）
- ・担当者 ・申込 3/10（火）までに担当者もしくは事務局まで

\*詳細は別途参加者へ通知します。

#### 4. 第31回全国支部懇談会「四国の山はなぜ美しい」(第3回小島烏水祭併催)

JAC初代会長の記念祭も併催されボリュームいっぱいです。事務局(前川)は初回に参加しましたが、大変満足でした。皆様お元気な間に歴史豊かな四国を是非ご満喫ください

##### ■平成27年4月11日(土)～12日(日)

・主催 四国支部

・日程(概要) 4/11(土) 10時～12時 小島烏水祭(高松市峰山公園)  
13時～16時半 全国支部懇談会(ホテル花樹海)  
18時半～ 夕食懇談会

4/12(日) Aコース 8時～15時 飯野山422m 善通寺 讃岐うどん

Bコース 6時～宿泊～13時 三嶺(1,894m300名山)下山後  
四国支部管理「菅生ロッジ」泊 13日 JR徳島駅で昼  
ごろ解散

・宿泊 喜代美山荘「花樹海」(香川県高松市 高松駅からタクシー10分)無料送迎バスあり

・参加資格者 JAC会員・会友およびその関係者

・参加費用 19,000円(一泊二日・夕食懇親会費含む。但し、夕食懇談会後の二次会、登山、  
観光の参加者は別途実費徴収)

・担当者および申込 石川支部事務局(前川)へ平成27年1月20日(火)までに連絡願います。  
その際、小島烏水祭、12日の各コースの参加有無も知らせ下さい。

## IV. その他お知らせ

### 1. 会員の物故報告

中山誠会員(64歳 No.14005)におかれては平成26年10月23日交通事故  
(自損)にてご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### 2. 「個人山行およびボランティア活動」の報告提出のお願い

次年度4月の定期総会資料に掲載するため、平成26年度の標記報告を事務局  
(前川)まで提出願います。提出はメールもしくは葉書により、葉書で提出され  
た方には、後日相当の切手または葉書をお返しします。1月以降のものは、3月  
末までに追加で報告願います。

(記載例)

○個人山行 5/1～3 北八ヶ岳 石川 鈴木

○ボランティア活動 7/1～2 白山 親子登山支援 藤田

⇒ボランティア活動は自然に関わるものであればジャンルは問いません。

### 3. 関西支部設立80周年記念式典

関西支部は1935(昭和10)年9月1日に設置され、来年には設立80周年を迎えます。これを記

念して、支部では、記念式典・フォーラムの開催、80年史の発刊、記念海外登山隊の派遣などに取  
り組んでいる所です。このたび、式典・フォーラムの骨子が決まりましたのでご案内申し上げます。  
会員各位多数のご参加をお待ちしております。

日程2015年5月30(土)～31日(日)

1日目：記念式典・フォーラム、祝賀会（受付13時30分、開会14時30分）

フォーラム：「但馬が生んだ孤高の登山家、加藤文太郎と植村直己」

① 松浦輝夫氏の講演「孤高の登山家植村直己を語る」

② 加藤芳樹氏らの加藤文太郎の朗読劇「山の声～ある登山家の追想～」

③ リピート山中氏の歌とトーク「孤高の人～加藤文太郎の歌～」

2日目：記念山行3パーティーに分かれて六甲山登山

A班：阪急芦屋川駅～高座の滝～ロックガーデン～六甲山(約4時間)

B班：東お多福山登山口～東お多福山～六甲山(約3時間半)

C班：神戸北野異人館散策(約2時間)～バスで六甲山

山頂で記念写真撮影後、バスで有馬温泉へ、入浴

その後、バスで新神戸、三宮へ(17時ごろ解散予定)

会場ホテル北野プラザ「六甲荘」神戸市中央区北野町1-1-14

定員式典・フォーラム150名、記念山行90名

費用祝賀会参加費1万円(式典・フォーラムのみは無料)

山行参加費3千円(弁当代、バス代、入浴料)

宿泊希望者には、六甲荘を斡旋します(1泊朝食付き1万1千円)

申込氏名、住所、電話番号、会員番号を明記の上、2015年3月末までに、関西支部式典  
担当宛、郵送またはメールで

〒530-0015大阪市北区中崎西1-4-22梅田東ビル304号

Eメールkansai.jac@canvas.ocn.ne.jp

\*申込者には詳細を連絡します。

\*祝賀会と記念山行の参加は、日本山岳会会員及び関西支部会友に限ります。

参加希望者は石川支部事務局(前川)へ平成27年3月20日(金)までに連絡願います。

#### <編集後記>

支部報3号作成にはいつも苦戦する。この  
時期は年賀状や本部報告資料等が重なり、  
事前に分かっているけどいつもギリギリにな  
らないとやれない。

進まない夜半に目が覚めることもある、  
今日この頃である。(A.M)

日本山岳会石川支部報

発行日 2014年(H26年)12月30日

発行者 公益社団法人日本山岳会

石川支部長 中川博人

編集者 事務局長 前川 陽

電話 076-232-3555

E-mail isk@jac.or.jp